

氏 名：矢野 祐美子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 237 号
学位授与年月日：2023 年 9 月 19 日
学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）
副査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）
副査 志田 京子（大阪公立大学教授）

論文題目： 中小規模病院の看護師長を対象とした問題解決思考力向上のためのオンライン学習プログラムの開発

博士論文審査結果

今研究は、中小規模病院の昇任初期の看護師長が問題解決思考力をあげることを目指し、オンライン学習プログラムを開発することを目的としている。研究者は問題解決思考力を、「部署の困難な状況を解消する、もしくは目指す姿を実現させるために、看護師長が自身の知識やスキル、利用可能な資源や機会を活用し、問題の特定と解決策を選択する力」と定義し、経験学習理論を理論的基盤として「基礎編」、「事例編」、「実践編」の3段階で構成されるプログラムを開発した。すべてオンライン研修であるが、前者2編は受講者が自分のペースで学べるようオンデマンドとし、「実践編」は模擬事例を用いたグループワーク2回の実施を含めた。

本プログラムを中小規模病院に勤務する昇任3年以内の看護師長18名に対して実施し、学習プログラムへの参加を通して、看護師長が問題解決思考を習得できることなどの点で評価した。

受講前後の「看護管理者のコンピテンシー尺度（NACAS）」では、「対人関係コンピテンシー」「目標設定コンピテンシー」「情報収集コンピテンシー」および「問題対処行動コンピテンシー」全てにおいて平均得点の上昇を確認することができた。今後「組織管理」の内容を加えることや、中小病院ならではの模擬事例を扱うなどのプログラムの改善点も指摘できた。

審査では、予備研究と本研究の流れを明確にすること、海外文献を含めること、結論を導くには不足している情報を加筆すること、プログラムが目指す看護管理者の姿を鮮明に記述すること、NACAS のスコアについて先行研究と比較することなど、その他、文言の統一、図表目次の追加、脱字の修正などが指摘された。修正論文は、期日内に提出され、修正されていることを確認した。

研究者は、中小規模病院に勤務する看護師長を対象にすることにこだわり続け、18名の学習プロセスを丁寧に書きあげること成功し、このプログラムは有用であったと結論付けた。国内の200床未満の病院は全体の7割であるが、そこに勤務する看護管理者はさまざまな理由で研修を受けにくい立場にある。研究者はこうした看護管理者たちの学習ニーズに答えていく力を十分に身に着けたことを評価し合格とした。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。